

4 基本支援

(1) 平成30年度の主な利用数値

- 登録団体：311団体（新規登録8団体、解散4団体）
- 入館者数：23,583人（月平均1,965人）〔昨年度対比：108.2%〕
- 相談数：514件〔昨年度対比：86.8%〕
- 問い合わせ数：220件〔昨年度対比：98.6%〕
- 会議室利用：300件〔昨年度対比：100%〕
- 持ち込みイベント：46日〔昨年度対比：100%〕
（8団体が24のイベントを実施）
- 機材貸出し：296件〔昨年度対比：142.3%〕
- ホームページアクセス数：15,343件〔システム変更のため対比不可〕
- 登録団体電子図書館記事数：1,362件〔昨年度対比：77.1%〕
（※HPの立ち上げやSNSでの発信が増えたことが予想される）



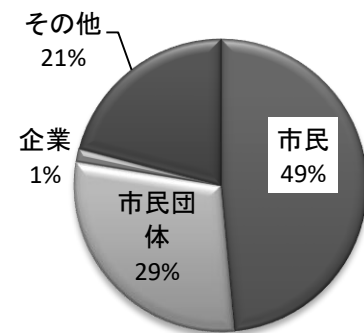
団体持ち込みイベント

(2) 相談

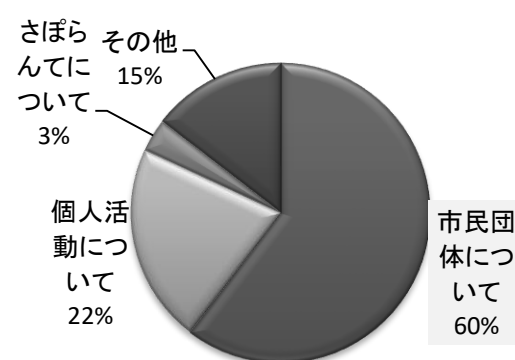
市民からの相談が227件49%と半数を占める。市民活動団体についてが半数以上を占め、個人的な活動についてが4分の1を占めている。

団体からの相談の1割を占めるNPO法人からの相談は、認定NPO法人格取得についてや助成金や寄付集めについてが多く、残りの任意団体からは、ブログ・HP・チラシづくりなどの情報発信、イベント開催についてなど活動についての他、事業の進め方や会計、NPO法人化についてなど運営についての相談もあった。

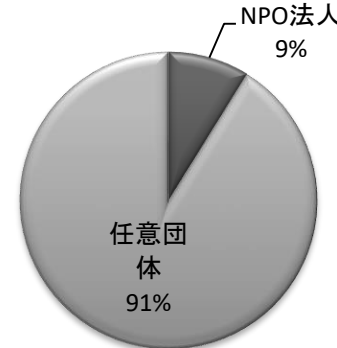
対象別相談等の割合



市民からの相談内訳



相談団体の分類



5 さぽらんて事業の目的別分類

市民活動団体の人材確保・財源確保がすすまない・・・

運営強化

- 活動充実講座 ■マネジメント支援セミナー ■伴走支援
- さぽカフェ ■WEBを利用した情報発信 ■ブログ立ち上げ支援 など

財源確保

- 助成金情報、申請支援 ■伴走支援(寄付集めに向けた事業整理)
- 企業×NPO寄附付き商品「支え人」 など

人材発掘

- ええやん新聞発行 ■テーマ型円卓会議 ■ボランティア情報発信
- 拠点での団体PR ■インターンシップ受入れ ■学生円卓会議 など

平成30年度の事業内容を簡単ですがお知らせします。振り返ると、地道な地域巡りや学生インターンシップの活躍が印象に残っています。未だかつてない時代の大きな転換期を迎え、未来は自分たちで創るものという意識も強くなってきました。これからは市民活動支援センターさぽらんては、市民の伸び代を信じて、市民活動団体に寄り添い、人材発掘・運営強化を通じて市民の組織づくりを応援していきます。令和元年は、拠点の移転も間近に控え、新たなスタートの予感です。〈わたなべ〉



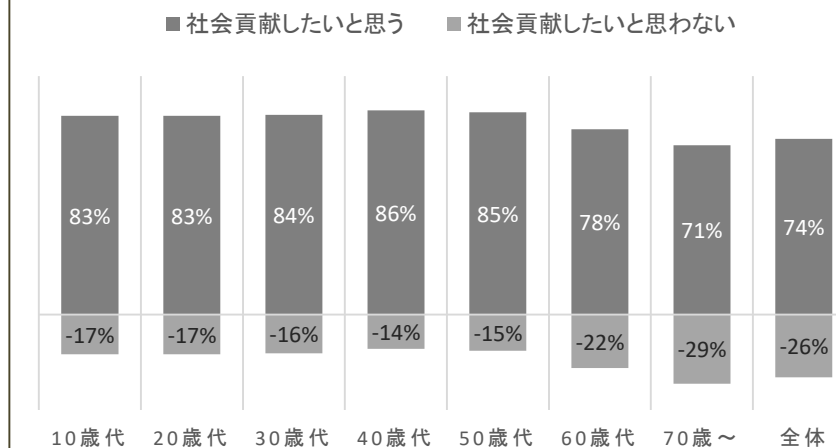
〒753-0047
 山口市道場門前1-2-19
 Tel : 083-901-1166
 Fax : 083-901-1165
 E-mail : saporant@c-able.ne.jp
 URL : <http://www.saporant.jp>

山口市市民活動支援センター
さぽらんて
 【H30事業報告ダイジェスト版】
 2019（令和元）年5月発行

平成30年度のさぽらんて事業報告

これまで誰も経験したことのない“超高齢化社会”を目前に控え、日本全体が大きな転換期を迎える中、平成30年度は山口市においてもこれまで進めてきた協働のまちづくりを深化させるために、新たな「協働推進プラン」が策定されました。市民活動支援センターさぽらんてにおいても、市民活動団体の人材確保、多様な財源確保ができる情報発信を含めた基盤強化を進めるとともに、スタッフ総出で地域セミナーへの協力や地域訪問・支援も行ってきました。

【世代別社会貢献意欲】



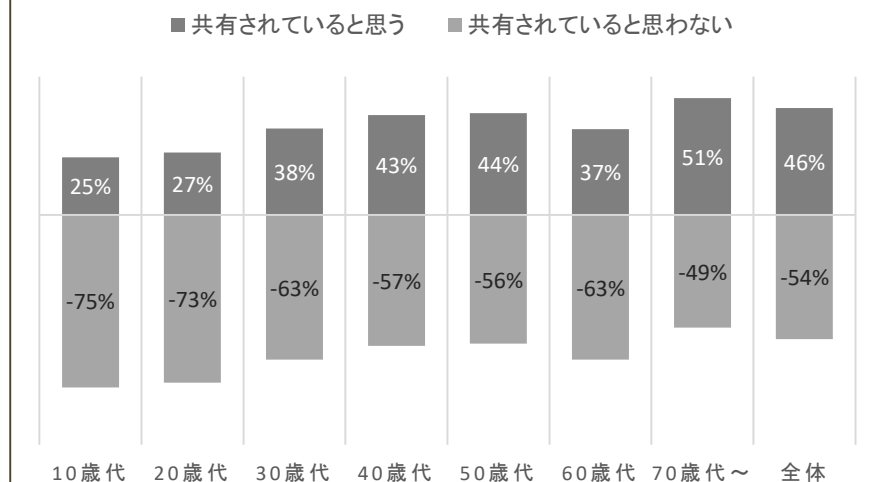
平成29年度の山口市まちづくりアンケートによると、10代20代の社会貢献への意欲は「思う」（「やや思う」含む）の割合は、合わせて83.3%と非常に高くなっていますが、市民活動・ボランティア活動をしている人は、10代20代ともに4.2%に留まっています。

また、地域の良さや課題について「共有されていないと思う」（「どちらか」という共有されていないと思う）の割合は、10代75%、20代73%と平均の54%を大きく上回り、若い世代への啓発や参加のきっかけづくりの重要性を感じます。

上記の現状を踏まえて、NPOへの伴走支援や相談などの基本支援の他、以下のテーマで事業を展開しました。

- 1 市民活動への参加のきっかけづくり
- 2 市民活動と地域をつなぐ支援
- 3 市民活動団体への活動・運営支援

【世代別地域課題共有への思い】



※事業概要については、次ページをご覧ください。

事業報告詳細についてはさぽらんてホームページより閲覧可能です。

1 市民活動への参加のきっかけづくり

(1) 若者の巻き込み

① 大学生ボランティアコーディネート

8月6日・7日のちょうちん祭りの夜、市民活動団体、学生ボランティアによる東日本復興支援のためのチャリティ屋台実行委員会を立ち上げ、チャリティイベントを開催。

② インターンシップ受け入れ

- ア. 山口県インターンシップ推進協議会や直接の申込みがあり2名のインターンシップを受け入れた。
- イ. 山口県立大学の「地域実習」の中で12名の学生に各60時間の実習を4つの市民活動団体とコーディネートした。



ちょうちんまつりでの大学生ボランティアと団体コラボ

(2) 啓発・情報発信

① 広報誌等の発行

ア. ええやん新聞

- 18号：特集～グリーン 悲しみに寄り添う～
- 19号：特集～子どもの成長を見守るまなざし～
- 各30,000部発行。市内小・中学校・公立幼稚園等配布、地域回覧

イ. 活動インフォメーション

市民活動情報の中から一般市民が馴染みやすい情報を選定し、紙媒体として発行。商店街などにも設置。

ウ. かわら版の発行

さばらんで事業後に内容をわかりやすくまとめて発行。

② ホームページ

昨年度のリニューアルに引き続き、団体情報やFB情報も見やすくトップページのデザイン修正を行った。また、地域情報のポータルサイトとして地域版カレンダーを新設した。「まちサポ広場」では登録団体すべての基本情報を掲載。

③ 市役所ロビーなどにおける市民活動出張展示

さばらんで入口に常設の、写真やキャッチコピーで団体の活動内容が一目でわかる「市民活動紹介ポスター」は、初めて来館された方が興味深く見るが多い。さばらんでに日頃来館する機会の少ない市民に向けては、外部会場（市役所ロビーやイベント）で市民活動紹介ポスターや団体パンフレットを展示することにより、団体情報を提供し市民活動を啓発した。



市役所での市民活動紹介ポスター展示

2 市民活動と地域をつなぐ支援

(1) 大内コドモジカンプロジェクト

地域で子どもを見守り、居場所、学び、体験の場づくりをすることで、住民同士の結びつきを強化。今年度は4地区で実施し、子どもの参加、大人のボランティアを合わせて、のべ461名が参加した。

(2) おさば未来カタリバワーク

昨年度より、小鯖地域交流センターと地域づくり協議会が共催で若い人たちを集めた「小鯖未来カフェ」を実施。その中で小鯖の未来を語り合い、実践につながるように「地域の愛着・誇り」「竹馬世界選手権の成果を考える」などをテーマにワークショップを開催。また、新たな地域活動団体TIKUBA-TOMO（竹馬の友）の立ち上げをサポートした。



おさば未来カタリバワーク



大内コドモジカンの様子

(3) 学生と地域をつなぐコーディネート事業

これまでさばらんでにインターンシップに来た学生などを中心に「Sapo-Trigger」を結成。学生ならではの自由な発想と行動力を生かした学生の自主企画を地域で展開することをサポート。

○大内地域コドモジカンプロジェクトへの参画

学生のみでプロジェクトの一つのプログラムを企画し、地域に向けてプレゼン。希望のあった地域に向けて講師の調整・準備をし、3回の運営実施を行った。

○ゆめ花博ボランティアインタビュー&報告

学生による、ゆめ花博会場でのボランティアへインタビュー（3日間30人）を行い、その内容を映像に合わせて県のパートナーシップ会議で報告するとともに、学生目線のボランティアの広がりについての意見を発表。



大学生のゆめ花博でのヒアリング



商店街広場活用ワーキング

(4) 商店街広場活用ワーキング

山口市都市整備部都市整備課からの依頼により、商店街にこの夏に設置する予定の多目的広場について、関係する市民活動団体6団体に声掛けし、多目的広場の機能や市民生活に向けての役割などを意見交換をするワークショップのお手伝いをした。



地域づくりキッカケ見つけ隊への参加

(5) 地域訪問等

地域ヒアリングや情報発信支援、地域向けセミナーへの参加などスタッフ総出で55回の地域訪問・支援を実施。

3 市民活動団体への活動・運営支援

(1) 活動充実講座

- ① スマホで写真 2団体参加
 - ② 文章構成の基本・団体プロフィールづくり 8団体参加
 - ③ ソーシャル・マネジメントセミナー 全4回 12団体参加
- セミナーのアフターフォローとして7団体に伴走支援。

(2) さばカフェ

～ひきこもりから社会とのリコネクション（再接続）を考える～



さばカフェ

上記をテーマに4市民団体、関係機関2か所、行政担当5課が集まり、3回の円卓会議を実施。各テーマは、○関係者の自己紹介○現場の課題○ケース検討○NPOが実施した調査報告○支援者ネットワークで支援力を高めるための事業計画○今後について など。まだまだ解決の糸口のみつからない“ひきこもり”という課題ではあるが、立場が違うひきこもりの支援者のネットワークが形成されたことは成果として大きい。今後はひきこもりを支援するNPOが中心となりひきこもり支援者ネットワークとして継続予定。

(3) 支え人。～企業×NPOのつながりプロジェクト～

今年度も3NPO法人に対し、8社から237,102円の寄付を頂く。これまで5年間の寄付金合計1,197,026円
他に、テーマに対する連携企業や自動販売機設置企業4社。



助成金カレンダー

(4) その他運営支援

① NPO訪問支援

運営や事業課題の整理やブログ立ち上げ支援などを28回実施。

② 助成金情報の発信

大切な財源である助成金情報を分野別、締切り月別、ビギナー向け、賞金対応に分類し、拠点へ助成金カレンダーとして掲示、希望する団体への毎月のメール配信、2か月に1回の紙媒体での送付を行った。



文章構成の基本講座



支え人。寄付金贈呈式